

日本海洋人間学会

神田 会長 人材確保・育成の重要性強調

第6回大会に係るシンポジウムで



神田一郎会長

日本海洋人間学会(神田一郎会長)は9月16日、「第6回日本海洋学会大会」に係るシンポジウムを開催した。今回のテーマは、「海洋分野における人材の確保と育成」。これは、近年の海

洋分野全般における喫緊の課題の一つである。人材確保・育成の重要性などをメインテーマとして取り上げたもの。同シンポジウムでは、文部科学省の高橋洋子主任教科書調査官が、「海

洋教育を求められる海洋人材を育む教材のあり方の展望」と題して、本年3月に改訂が告示された学習指導要領を踏まえ、今後の海洋教育に係る教材のあるべき方向性などについて基調講演。そのほか、海洋人材確保の方向性や、海洋分野における若年層育成のあり方などに係る各種講演が行われた。

また、冒頭の挨拶の中で神田会長は、現状に鑑み、将来のわが国の海洋分野を担う人材の確保・育成を図ることの必要性を訴え、様々な活動現場で

なごを強調した。なお、神田会長の挨拶骨子は次のとおり。

【神田会長の挨拶】
海洋関係では、海浜・海上・海中などでの労働、マリンスポーツや船乗りの養成、海を利用したの教育など、海に関わる様々な分野がある。当学会では、そうした様々な分野で活動を行う指導者、教育者、研究者などの方々に対して、海を通じての教育プログラムの提供などに係る学理や、その応用についての研究発表、様々な活動現場で

今年度は海洋基本法の成立から10年目であり、海洋基本計画の5年ごとの見直しの2回目の最終年

の情報や知識の交換、会員相互および内外の関連団体との連携協力などを行う。これにより、海で活動する人々にまつわる学問の進歩・普及を図り、もってわが国の学術の発展に寄与することを目的としている。

当学会は創立以来6年目を迎えるが、その間、日本学術会議から協力学術研究団体としても認められた。また、徐々にではあるが会員数も増加するなど地道な活動を行っている。その一環として、年に1回このような大会を開いて、海と人間に関わるテーマで、様々なシンポジウムを実施している。

度にあたる。これを踏まえて、国を挙げて海洋に関わる様々な取り組みが強化されている。特に本年3月に改訂が告示された学習指導要領では、子供たちの教育分野において、海に関する事柄をより多く盛り込むための改訂も行われた。今日は、それに関連した基調講演も企画している。それからシンポジウムとして、海洋に関わる人材をいかに育てていくべきか、幼児教育から始まって小・中・高校、そして社会に出てからの若年船員の育成などについて、今回は教育者の方々とともに、内航、外航、漁業関係の船会社の方々にも講演し

ていただく。また、今回初めての企画として、従来のように会員だけでなく一般の方々にもシンポジウムに来ていただくため、参加無料という形もとらせていただいた。本日は皆様にも、様々な講演などをお聞きいただき、日本の将来の海洋分野を担う若者の育成について考える上で、参考にしていただければ幸いです。